

第9回これで防げる！学校体育・スポーツ事故 シンポジウム「落雷事故から子どもを守る」

アンケート集計結果

調査期間

2026年7月18日～7月23日

調査対象

シンポジウム「落雷事故から子どもを守る」参加者

会場参加	30人	
ウェビナー参加	71人	合計101人

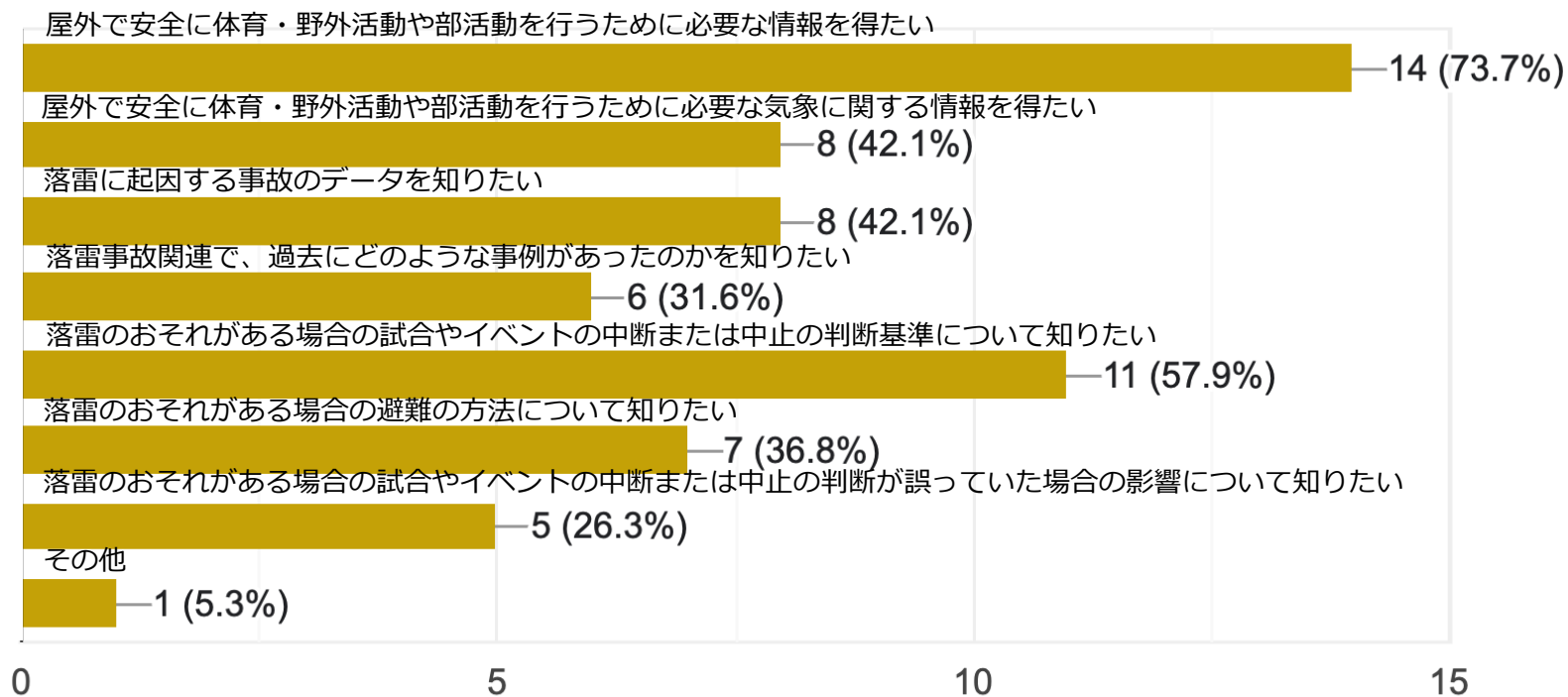
調査方法

Google Formによるウェブアンケート

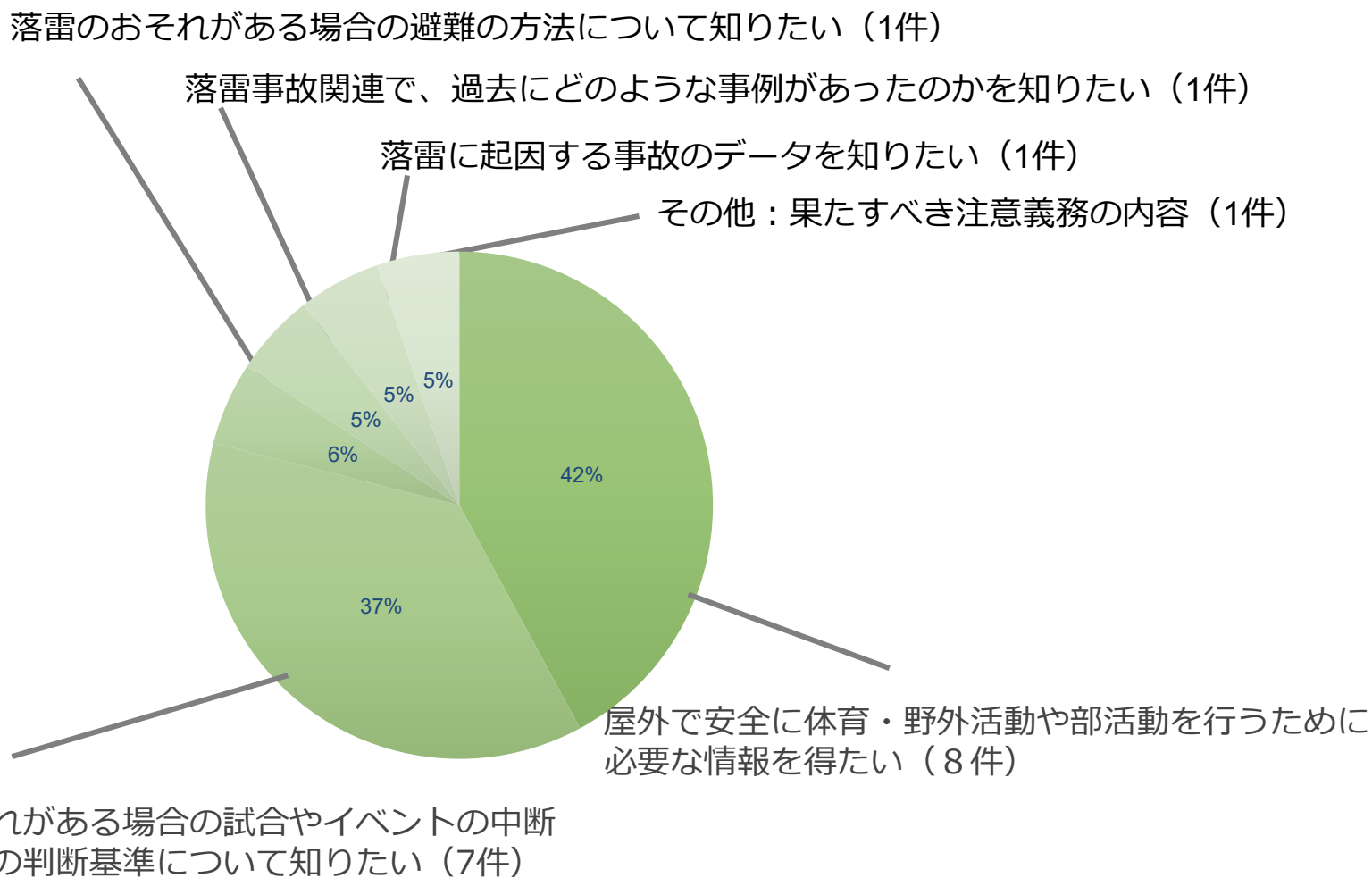
回答数

・回答数	19件
・回答率	約19%

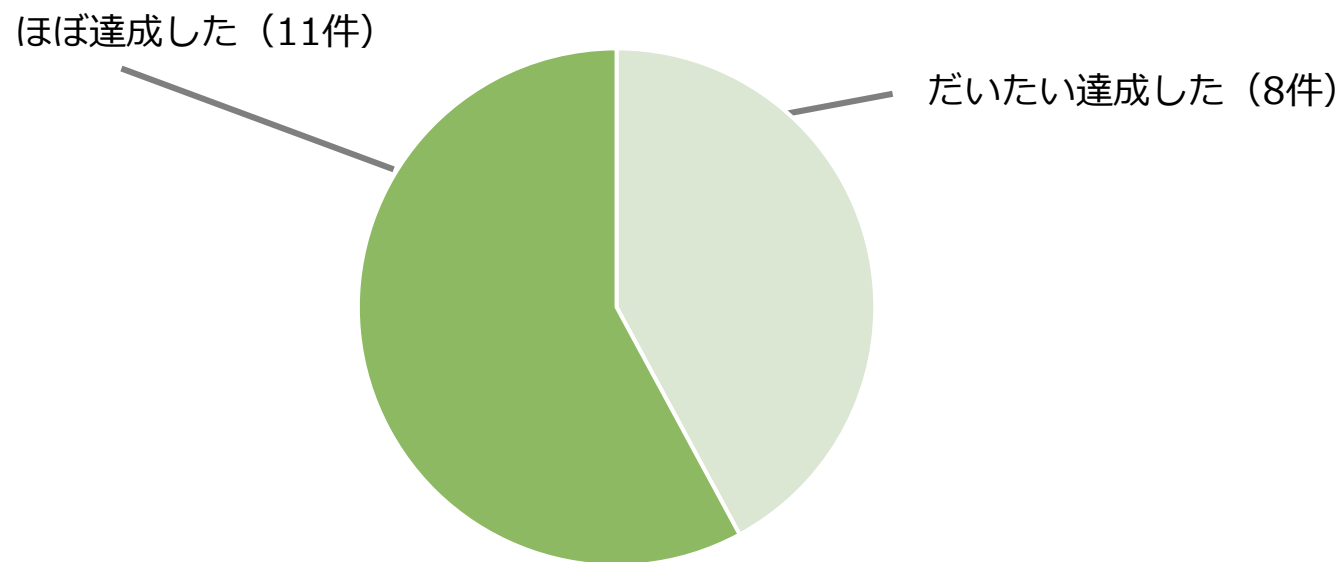
◆ このシンポジウムに参加した目的（複数回答可）



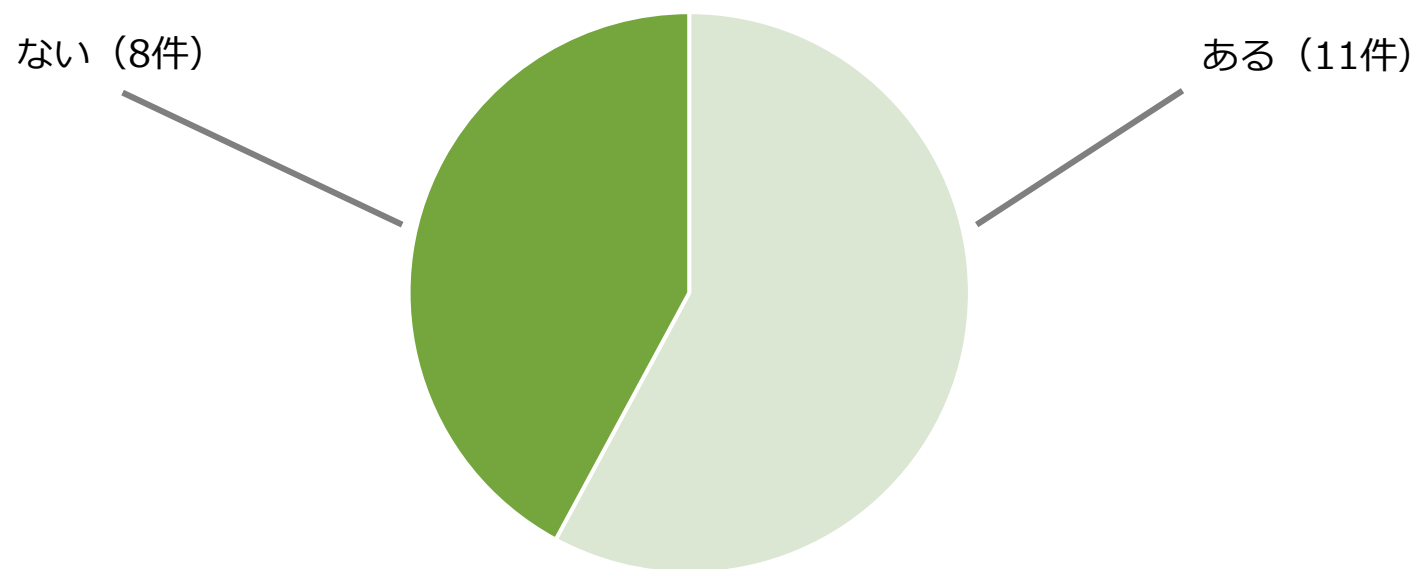
◆ 参加した目的の中でもっとも大きな目的



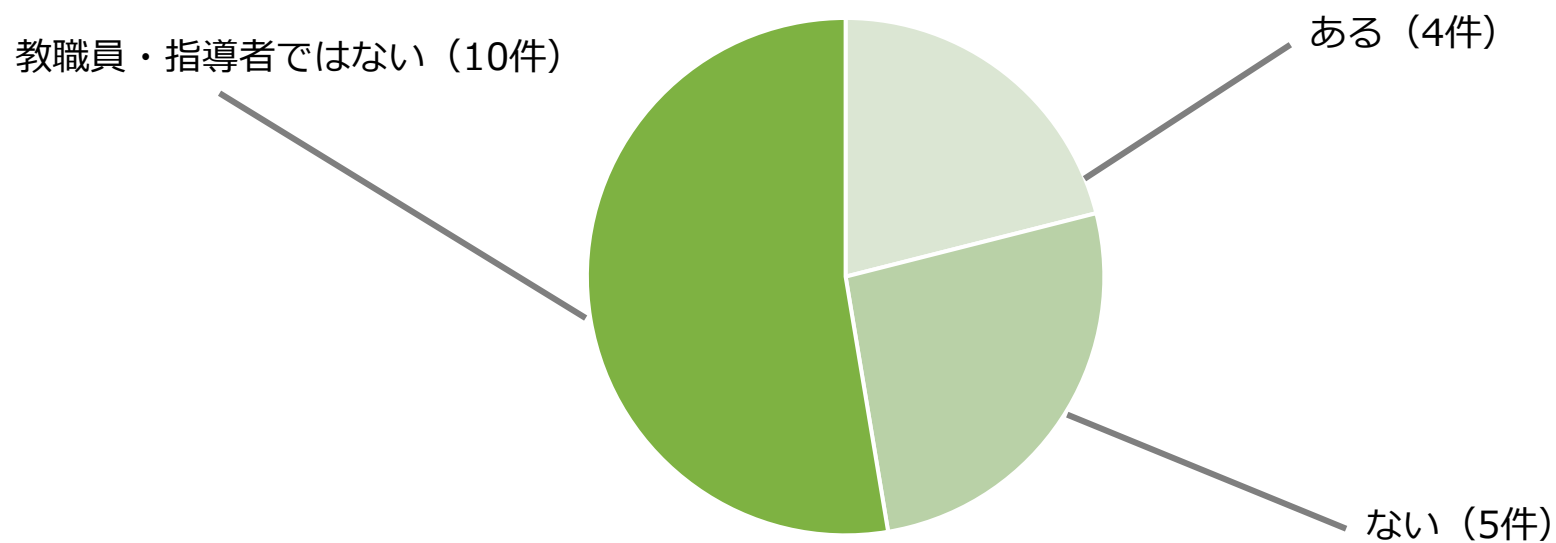
◆ 「もっとも大きな目的」の達成度



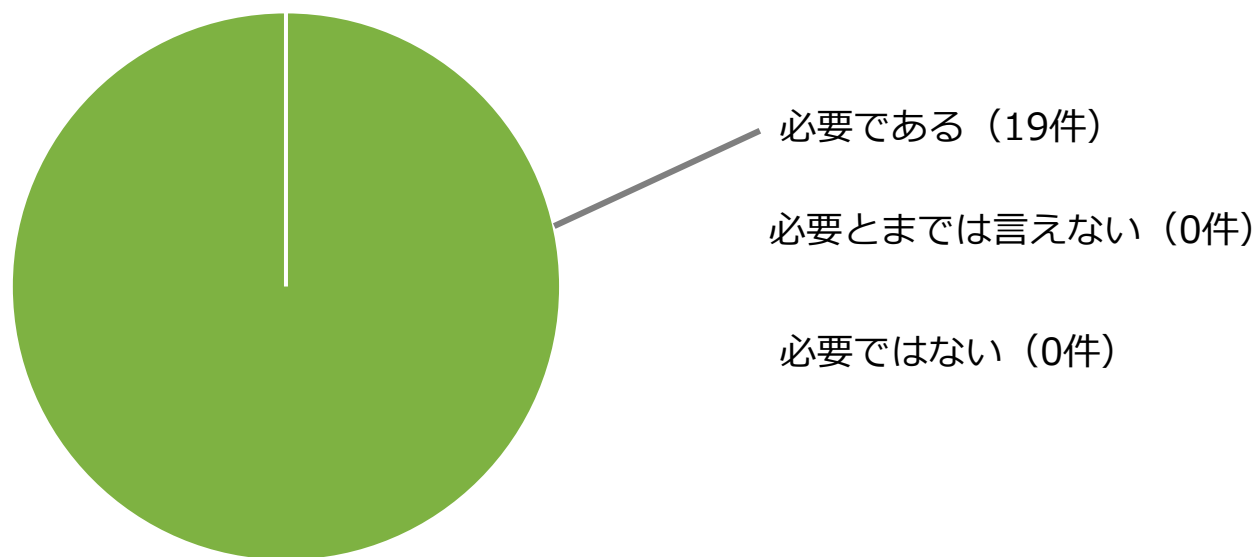
◆「落雷」の危険性や過去の事例について調べた経験



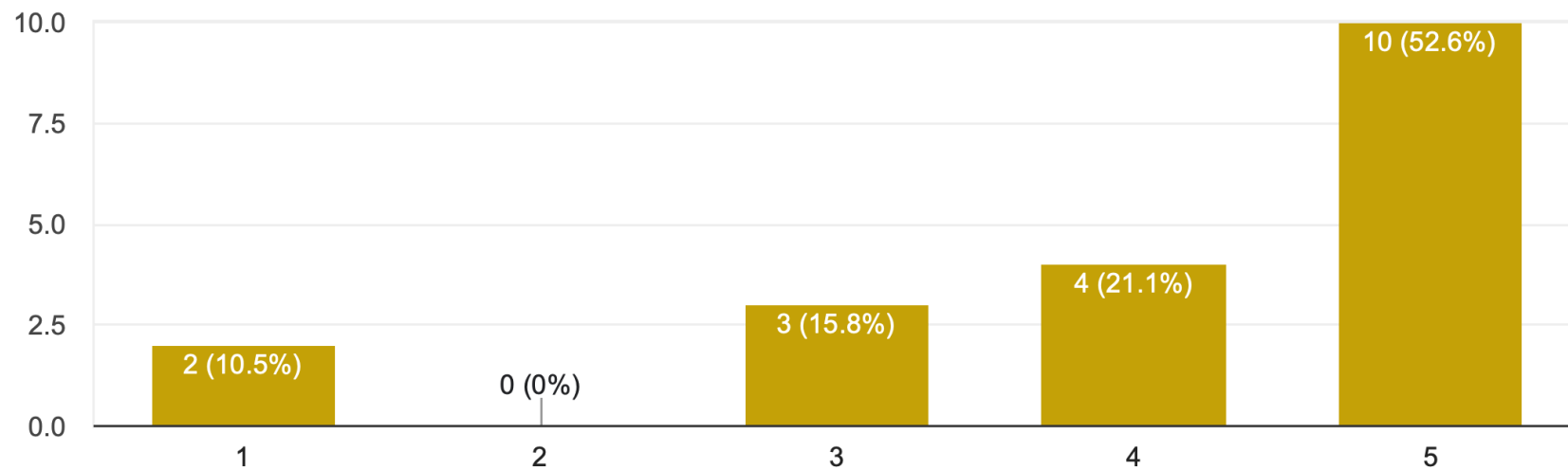
◆「落雷事故」について教職員・指導者間・担当者間で検討した経験



◆ 教職員や指導者が落雷による行事の中断・中止を判断する際の基準は必要か



◆ 基調講演「落雷は防げないが、落雷事故は防げる」の満足度



◆ 基調講演について、新たな学び または 課題解決につながったこと

文部科学省の通知の不完全性（雷ナウキャストについて「推奨」⇒「考えられる」は見落としていました。）。再開基準の深化。アプリ（雷ナウキャスト以外）の活用。

文科省の通知に足りないものが何か、分かった

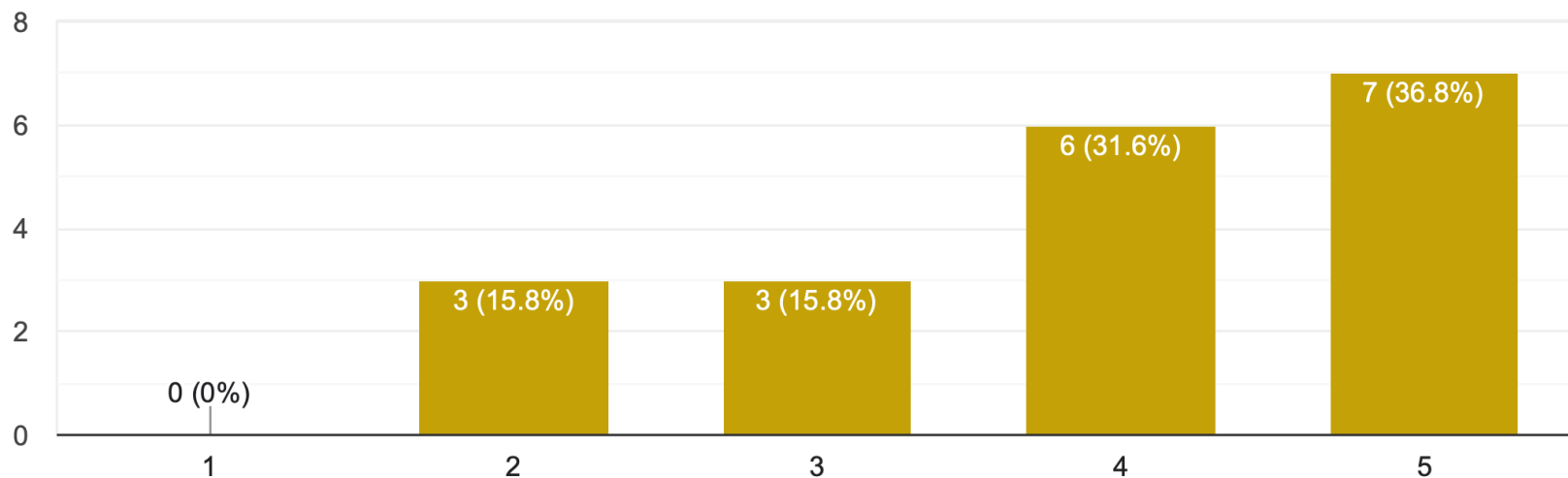
過去の事例や当事者のエピソードから落雷をより身近なものに感じることとなった。今と昔の環境の変化が意識の変化に変わっていることも理解できた。木の下に避難でも4mは離れる必要があることも理解できた。雷鳴がなったら直ぐに避難という意識を持とうと思った。

中断や中止の判断に「命の問題」と考えなくてはいけないと思いました。

科学的な裏付けも分かり大変勉強になった。

科学的根拠と現場間での情報共有の大切さ

◆ 報告「日本雷害保護システム工業会での調査報告」の満足度



◆ 同報告について、新たな学び または 課題解決につながったこと

雷の発生状況（都市部とそれ以外とを区別して紹介）。現在では、雷自体の発生をなくす方法はないこと。

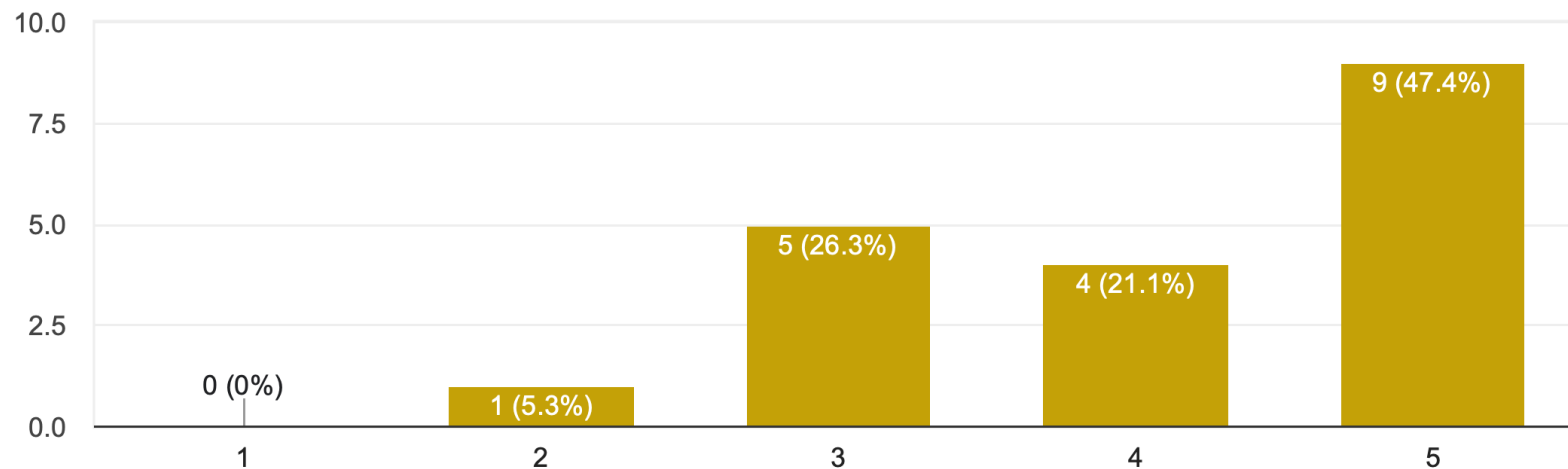
地域によって落雷の起こる割合が異なることがわかった

アプリの活用が良いと思った。雷ナウキャストは10分のラグがあるので、活用時には意識する必要があると考えることができた。

避雷針のメカニズムなど、興味深く拝聴いたしました。

雷の発生しやすい地域の把握ができた

◆ 報告「落雷事故の実態について～JSCのデータ分析から」の満足度



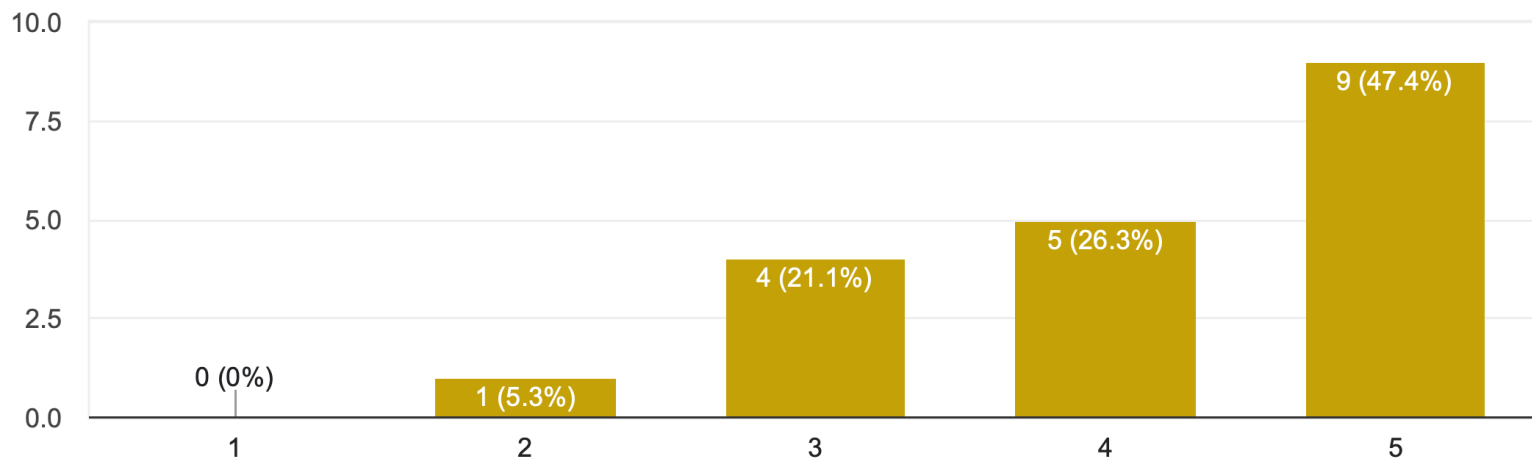
◆ 同報告について、新たな学び または 課題解決につながったこと

関連事故の紹介は有益でした。

避難時の転倒や事故にも気を付けなくてはいけないと思った。

音による怪我の発生

◆ 報告「中体連協力『落雷事故』に関するアンケート分析結果報告」の満足度



◆ 同報告について、新たな学び または 課題解決につながったこと

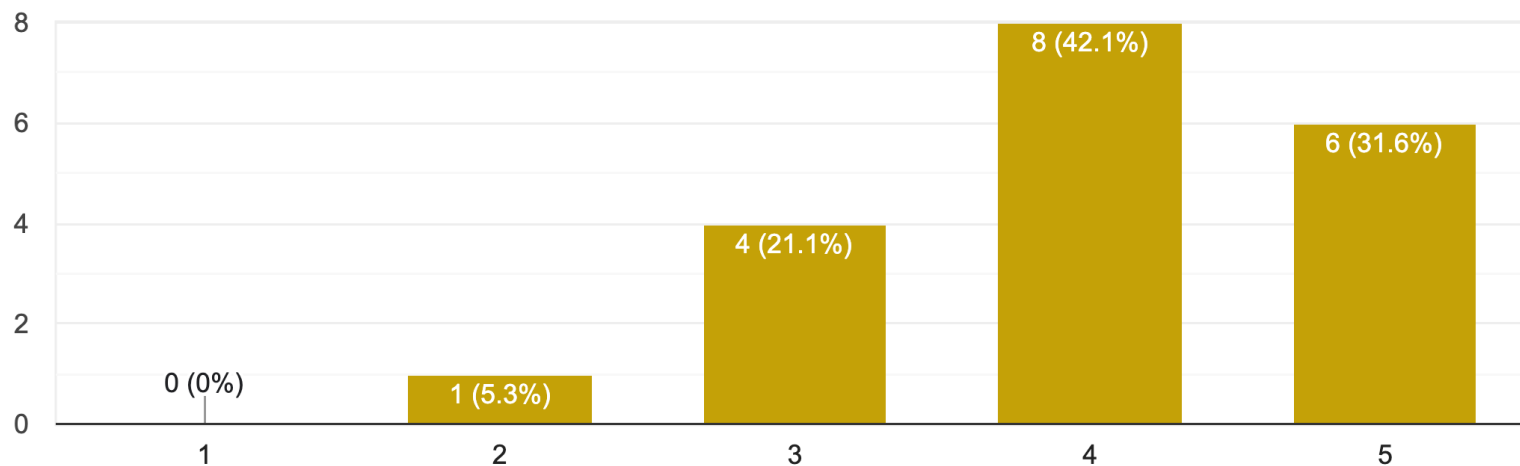
現場での課題が浮き彫りにされていて貴重な報告でした。

現場で困っていることがわかった

教職員の負担が多い事が感じ取れた。

なんとなくの準備が多い

◆ 報告「競技団体落雷事故防止指針及び事故現場（宮崎産業経営大学）」の満足度



◆ 同報告について、新たな学び または 課題解決につながったこと

AEDの備置の困難性の指摘については、ひと工夫があっても良かったのではないかと思います。移動用（携帯用）のAEDを用意するとか（合宿、遠征用などに携帯）、道具小屋（無ければ設置）に配置するとかも考えられるのではないのでしょうか。

実際に対策をとりつつも残る課題もあることがわかった。現場で使えるマニュアルが大事であると感じた。

実際の現場がどう対応しているのかを学ぶことができました

◆ 3つの提言（下記）についての感想

- 1 雷雲の動きを知る –アプリで確認–
- 2 判断基準の客観化と周知 –中止と再開の判断、避難計画–
- 3 判断基準に基づく判断権者の事前決定 –現場の指導者だけに任せない–

選択肢	選択数
落雷事故の予防法が、20世紀と21世紀でどのように変わったかを示してもらったので、よく理解することができた	6
20世紀と21世紀の違いが示されたが、そのまま学校現場にあてはめることができるかどうかはわからない	3
具体的かつ実現可能な提言であり、すぐに現場で共有し、実践したい	11
具体的かつ実現可能な提言と思われるが、実際に現場で導入できるかどうかはわからない	4
落雷事故の予防法について、「ツール」「判断基準&避難方法」「判断権者」の3つに分けて説明してもらったので、理解しやすかった	12
これらの提言を、現場にどのように伝えるかが課題だと思う	10
これらの提言を、モデル校またはモデル地区で実践し、どのように変わったかを検証してほしい	2
これらの提言を、広く社会に発信してほしい	8
「雷ナウキャスト」や「雷監視システム」はすぐれたツールだが、教員個人のスマートフォンを使用することになると、通信料などが気になる人もいるのではないか	2
すぐれたツールはいろいろあるが、児童・生徒の指導をしながら手元のスマートフォンを見るのは難しい	4
雷だけでなく、天候全般を監視し、判断する担当者がいるとよいと思う	6

◆ このシンポジウムで新たに得た知識や情報の中で、特に重要であると思うこと

3つの提言に沿った現場での具体化。今回の提言に従って、各学校、イベント主催者が具体化すべきです。例えば、判断権限者の決定は、各学校、イベントごとに具体的に決めることを強く求めていくべきだと思います。

落雷は増えてきている中で、落雷に対する恐怖心の低下が環境の変化によってもたらされているということ。具体的な中止基準等の設定が現場の判断も早くできるということ。

正しいデータの収集方法と、現場での判断の基準となるものの設立

科学の活用、判断基準の大切さ

◆ 次回以降に取り上げてほしいテーマや内容

「スポーツ活動（部活動、民間クラブ（幼稚園：保育園も含む）、地域クラブ）移動中の事故防止」、「事故後の救済方法（広く事故拡大防止、救急方法、リハビリも含めて）」（子ども、女性・ジェンダー、成人、高齢者）、「山岳事故」（夏山、冬山、小・中学校行事としての登山、山岳部活動）、「障害者の事故防止・リハビリ」

部活動の地域移行に伴う事故の予防や管理について

◆ 参加者（回答者）の立場・所属等（複数回答可）

